

令和5年度 第1回

塩尻市中学校部活動地域移行等協議会
資料

塩尻市教育委員会

塩尻市中学校部活動地域移行等協議会について

1. 協議会の委員構成

No.	氏名	役職等	No.	氏名	役職等
1	中島 弘毅	松本大学人間健康学部スポーツ健康学科 教授	8	塚原 克彦	塩尻市スポーツ少年団 本部長
2	上條 勝利	塩尻市校長会副会長（両小野中学校校長）	9	参沢 篤	特定非営利活動法人Laule FC代表（サッカー）
3	川村 平	塩筑中学校体育連盟事務局（広陵中学校教員）	10	平林 巧造	塩尻ミニバスケットボールクラブ代表 一般社団法人アーバンスポーツ信州代表理事
4	吉江 節子	部活動指導員（塩尻西部中学校吹奏楽部）	11	中村 吉俊	塩尻市民吹奏楽団 副団長
5	篠原 清満	部活動外部指導者（塩尻西部中学校ソフトテニス部）	12	高木 潤一	長野県中信教育事務所生涯学習課 指導主事
6	薄田 利秋	学校運営協議会 会長（広陵中学校）	13	小路 竜嗣	塩尻市PTA連合会 会長
7	寺澤 好則	塩尻市スポーツ協会 事務局長			

2. 協議会の目的

塩尻市内の中学校の生徒がスポーツ及び文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を将来にわたり確保することを目指し、中学校部活動の地域スポーツ団体活動、文化芸術団体活動等への移行及び地域連携に向けた課題に総合的に取り組む。

3. 委員の任期

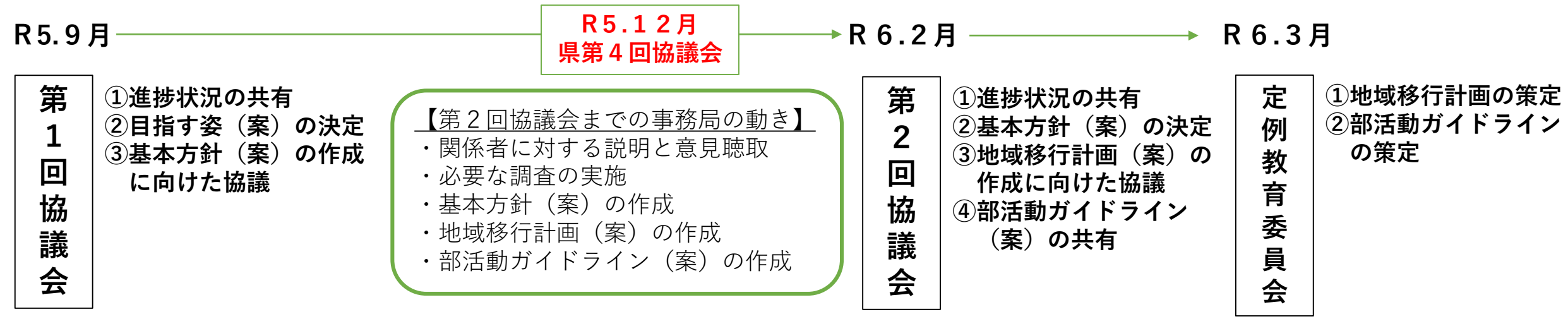
2年

4. 会長及び副会長

- ・協議会に会長及び副会長を置き、委員が互選する。
- ・会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- ・副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

令和5年度の動き

1.協議会運営と地域移行計画の策定



2.その他（事務局の動き）

学校部活動	学校部活動の適正化に向けた取組 （担当：教育総務課） <ul style="list-style-type: none"> ①新人戦や来年度に向けた合同部活動の調査、支援 ②来年度に向けた部活動指導員及び外部指導者の募集 ③スポーツ庁実証事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に体験型の活動を行う「なららクラブ」 ・「スクールバス」による移動支援の検討 ④教員負担軽減に向けた学校の働き方改革の推進 	地域クラブ活動	協力団体の確保に向けた取組 （担当：社会教育スポーツ課） <ul style="list-style-type: none"> ①市内で活動している地域クラブ・指導者の実態把握 ②協力団体・指導者の募集 ③協力団体・指導者の育成、支援に向けた調査、検討 ④新しい地域クラブの立ち上げに向けた調査、検討
地域移行	休日の地域移行に向けた取組 （担当：教育総務課・社会教育スポーツ課） <ul style="list-style-type: none"> ①長野県地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会の動向把握 ②既に地域移行的活動を行っている団体へのヒアリング ③令和6年度以降の先行実施に向けた調査、検討 ④保護者負担軽減策、公共施設の優先使用・減免などの調査、検討 		

「塩尻市が目指す姿」の検討①

1.国のガイドライン（令和4年12月策定、令和5年度～令和7年度）

（前提）

- ・少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要がある。
- ・「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備する。
- ・地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

（主な内容）

- ・学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の推進
- ・学校部活動の地域連携並びに地域の運営団体・実施主体による地域クラブ活動への移行

▶まずは休日における地域の環境の整備を着実に進める。

▶平日における環境整備については、できるところから取り組むことが考えられ、地域の実情に応じた休日における取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進する。

2.長野県中学生期のスポーツ・文化芸術活動が目指す姿（令和5年9月15日 県協議会資料より）

（学校部活動から転換する「地域クラブ活動」に求められるもの）

- ▶自己の状況に応じて、体力や技能、表現力、想像力等を育成できる（成長期の心身の成長に合わせた活動）
- ▶自分の興味ある活動に主体的に取り組むことができ、上達することで達成感を味わいながら自己肯定感を高められる（単に高度な技術等を身に付けることでなく、現在の状況から上達したり目標を達成することが出来る活動）
- ▶他者との関わりの中で仲間づくりや社会性・協調性を育むことができる（他者との関わりの中で自身の存在を感じられるような活動）

※今後、県として方針を伝えたり、ガイドラインを作ったり、国の事業を整理したりしていくとのこと。

事務局の考え

- ①完全地域移行はまだ先の話。当面の間は、生徒や顧問にとって望ましい形で学校部活動を運営したい。
- ②子どもたちの希望を第一に考え、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保と、体験格差の解消を目指したい。

「塩尻市が目指す姿」の検討②

1.部活動顧問へのアンケート結果（回答総数62）

- ▶「部活動指導が好き」と回答した顧問が40.3%、「仕方なくやっている」と回答した顧問が11.3%だった。
- ▶地域移行については、賛成が58.1%、反対が8%、どちらとも言えないが33.9%だった。

2.中学生へのアンケート結果（1年～3年 回答総数1,362）

- ▶部活動に入っている生徒（1,002人、73.6%）の満足度は高く、今の部活動を続けたいとの回答が多かった。
- ▶部活に入っていない生徒（360人、26.4%）は、サッカークラブチームなど他にやっていることがあるか、学校にやりたい部活がないと回答。

3.小学生へのアンケート結果（3年～6年生 回答総数2,017）

- ▶約7割の児童が、放課後や休日に何らかの活動をしていると回答。
- ▶約9割の児童が、中学生になったら部活をやりたいと回答。
- ▶やりたい競技・活動に対する回答数4,457のうち、進学する中学校にない競技・活動を選んだ回答数が1,193（26.7%）あった。

4.保護者へのアンケート結果（市内在住の中学生以下の子どもがいる世帯 回答総数1,904）

- ▶地域移行に期待することは、「専門的な指導が受けられる」「希望する活動ができる（多様な活動から選べる）」の回答が多かった。
- ▶地域移行で懸念していることは、「保護者の送迎」「活動場所までの移動」「活動費用の負担」の回答が多かった。

事務局の考え

- ①希望するスポーツ・文化芸術活動が自分の（進学先の）学校にない子どものために、学校部活動であれ地域クラブであれ、希望する活動に参加できるようにしたい。
- ②地域や家庭の事情で、子どもが希望する活動への参加をあきらめることがないようにしたい。

「興味がある」「やってみたい」を超えた、
「やっていて楽しい」「自分に向いている」
と思える活動

「市内で行われている活動の情報が行き渡っ
て」おり、「気軽に体験できる」状態を創出
することで、自ら発見することができる

子どもたちが自分に合った活動を自ら発見し、

希望どおりに参加できる塩尻市

「活動の場や機会が十分確保」されており、「定期的かつ
継続的に行われている」状態を創出することに加え、
「地域や家庭環境などに起因する不安」を解消することにより、
希望どおりに参加できる

スポーツに関しては、運動能力が大きく発達するゴールデンエイジ期（～12歳頃）の活動を促進するほか、中学生期の活動への接続を重視した取組みを推進したい。

今回の協議事項

1.それぞれの視点から、部活動の地域連携・地域移行で実現させたいことを具体的に考える。

視点	実現させたいこと
子ども	(例) 希望する活動ができる
保護者	(例) 経済的負担が増えない
教員	(例) 望まない教員は顧問にならなくてよい
学校	(例) 教員の負担が軽減される
外部指導者など 現在の協力者	(例) 移行後も引き続き指導できる
地域（住民・クラブ）	(例) 活動が活性化する

2.上記1を踏まえ、今後、学校部活動及び地域クラブ活動が目指す方向性について具体的に考える。

区分	方向性
学校部活動	(例) 部活動指導員又は外部指導者の協力により、生徒が専門的な指導を受けられるとともに、教員の負担が軽減される。
地域クラブ活動	(例) 希望する活動を気軽に体験できるクラブや、競技力・技術力が向上し大会で活躍できるクラブなど、様々な地域クラブがある。



部活動地域連携・地域移行の基本方針（案）に反映